

海洋。プラごみテーマに劇



プラスチックごみの削減を訴えた創作劇(松江市で)

松江 市民団体上演、深刻さ強調

環境保全の啓発運動などに取り組む市民団体「くびきエコクラブ」が13日、松江市の生馬公民館で、海洋プラスチックごみの問題をテーマにした創作劇「海亀の涙」を上演した。観客約80人に向けて、環境に配慮した生活への取り組みを問いかけた。

プラスチックごみによる海洋汚染が進んでいることを知ったスーパーの店主が、過剰包装やレジ袋の提供を取りやめるという物語。劇中ではストローが鼻に刺さり流血しているウミガメの動画を映し出し、問題の深刻さを強調した。

脚本と演出を担当した名誉会長の山口信夫さん(76)は「まずは問題の実態を知ってもらい、使う側も提供

する側も考えてほしかった」という。9年間で50回ほど創作劇を上演してきたが、これまでは地球温暖化問題を取り上げたものがほとんどだった。北垣幸久会長(72)は「社会的関心が高まっていて、主題

を変えなきゃだと思った」と語る。松江山下佐陀町で農業を営む松尾知樹さん(80)は「今話題のテーマで、関心を持って見た。農業で出るごみの処理も気をつけた」と話した。